

資格の学校 TAC 平成 25 年度 東京都 I 類 B [行政/一般方式] 採用試験 専門記述 経済学 【解答例】

問題

損益分岐点及び操業停止点について、図を用いて説明せよ。

解答のポイント

損益分岐点及び操業停止点については大方の受験生が知るところであり、定義を整理して図説をおこなえばよいので比較的容易であったであろう。損益分岐点と操業停止点の定義は以下の通り。

- ・ 損益分岐点：完全競争市場下において、ある市場価格のもとで企業が利潤最大化行動をとった（市場価格と限界費用が一致するように生産量を決定した）場合に利潤がゼロとなる状況をいう。
- ・ 操業停止点：完全競争市場下において、ある市場価格のもとで企業が利潤最大化行動をとった（市場価格と限界費用が一致するように生産量を決定した）場合に粗利潤（生産者余剰）がゼロとなり、企業が生産活動を停止せざるをえなくなる状況をいう。

また、損益分岐点は平均費用曲線の最低点で示され、操業停止点は平均可変費用曲線の最低点で示される。

以上が最低限言及すべき内容である。

解答例

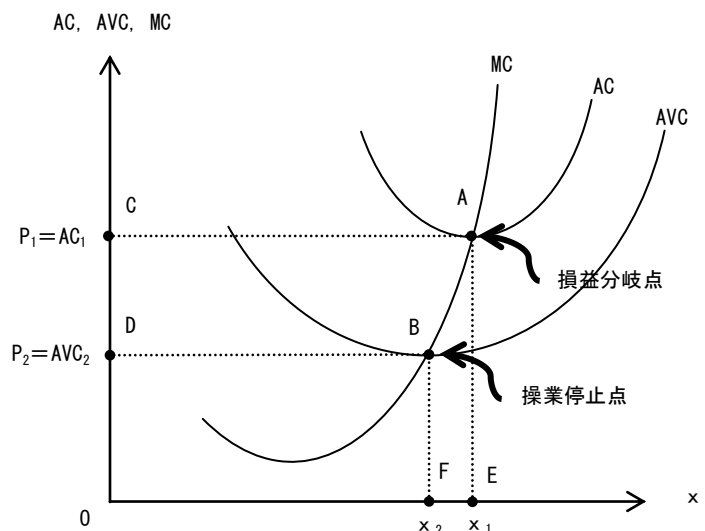
損益分岐点とは、完全競争市場下において、ある市場価格のもとで企業が利潤最大化行動をとった場合に利潤がゼロとなる状況をいい、操業停止点とは、完全競争市場下において、ある市場価格のもとで企業が利潤最大化行動をとった場合に粗利潤（生産者余剰）がゼロとなり、企業が生産活動を停止せざるをえなくなる状況をいう。以下で図を用いて説明をする。

縦軸に各種費用、横軸に生産量（ x ）をとった座標平面において、一般的な企業の平均費用曲線（AC）と平均可変費用曲線（AVC）、限界費用曲線（MC）を描くと下図のようになる。

まず、市場価格が P_1 で与えられた場合、企業は、利潤最大化行動をとると、生産量を x_1 で決定する。このとき、この企業の収入と総費用が一致する（四角形 AEFC）ため、利潤はゼロとなる。ゆえに、点 A で示される平均費用曲線の最低点を損益分岐点、 P_1 を損益分岐価格という。

また、損益分岐価格（ P_1 ）よりも市場価格が高い場合、企業が利潤最大化行動をとると利潤は黒字となり、損益分岐価格（ P_1 ）よりも市場価格が低い場合、企業が利潤最大化行動をとると利潤は赤字となる。

次に市場価格が P_2 で与えられた場合、企業は、利潤最



大化行動をとると、生産量を x_2 で決定する。このとき、この企業の収入と可変費用が一致する（四角形 BFOD）ため、粗利潤（生産者余剰）はゼロとなる。ゆえに、点 B で示される平均可変費用曲線の最低点を操業停止点、 P_2 を操業停止価格という。また、操業停止価格（ P_2 ）よりも市場価格が高い場合、企業が利潤最大化行動をとると粗利潤は黒字となるため生産を継続した方が合理的であり、操業停止価格（ P_2 ）よりも市場価格が低い場合、企業が利潤最大化行動をとると粗利潤は赤字となるため生産を停止せざるを得なくなる。

(726 字)